

令和5年度補正GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト事例 (事業実施主体：茨城県産米輸出拡大実証協議会、品目：コメ)

課題

生産低コストの削減

- ✓ 国内外の産地との価格競争で優位に立つため、米生産の更なる低コスト化が必要

需要に応じた品質向上

- ✓ 高品質な米の需要に対応することが必要

輸送コスト低減に向けた対応

- ✓ 輸送費が高騰する中、輸送コスト低減に向けた輸送体系の見直しが必要

取組

低コスト栽培の実証

- ✓ 多収品種を用いた水稻再生二期作栽培の実証

品質向上に向けた管理方法の転換

- ✓ ・A I を活用した生育予測が可能なシステム(xarvio※)を導入し、適期作業を実現。

一元集荷拠点の設置

- ✓ 市場の近隣倉庫を賃借し、従来との物流コストの比較

成果

収量と低コストの両立

- ✓ 慣行と比較し収量は20%(105kg/10a)増加、生産コストは16%(1,521円/60kg)減少。

精米の品質向上を実現

- ✓ 生育予測の活用で刈遅れが減少し、整粒歩合が向上した。

輸送コストの削減

- ✓ 集荷拠点を集約することで、コストが55%(8.5円/kg)削減



令和5年度

輸出額 約2.8億円
輸出量 約1,657トン

令和6年度（実績）

輸出額 約4.8億円
輸出量 約3,124トン

※xarvio®FIELD MANAGER（ザルビオ®フィールドマネージャー）：JA 全農が推奨するAIを活用した栽培管理システム。各ほ場の土壌や作物の品種特性、気象情報、人工衛星からの画像等をAIが解析し、作物の生育や病害・雑草の発生を予測、最適な防除時期や収穫時期等を提案する。